

スポーツ文化の風を発信する

NITTAIDAI

ニッタイダイ 2003年 春



CONTENTS

特集1 ■ 国際交流 — 1

日体大と北京体育大学・慶熙大学校との交流

特集2 ■ 箱根駅伝 — 3

7年ぶりにシード権獲得／白いタスキを支える人たち

特集3 ■ 座談会 [塔尾教授・垣添・大西] — 7

日体大卒初の十両力士誕生!!

INTERVIEW ● アスリートたち — 9

Active People ● 社会の第一線で活躍するOB・OG — 11

News Eye ● 教職志望者必読「総合的な学習の時間」 — 13

NEWS ● 02下半期ニュース — 15

クラブ情報 ● 02下半期 クラブの主要大会成績 — 17

MY VOICE ● みんなの広場 — 18

INFORMATION ● dot. NITTAIDAI — 19

国際交流

日本体育大学は、1982年に北京体育大学並びにドイツスポーツ大学ケルンとの間に「学術・スポーツ交流に関する覚書」に調印を行った。そして、今年・2003年2月には韓国の慶熙大学校と「国際交流協定」に調印を行い、両校の更なる国際的な学術・スポーツ交流を確認した。この協定によって、多くの留学生が国・言葉・文化などの境を越えて交流を深め、大学の発展に大きく貢献している。

今回の特集では、北京体育大学との交流20周年記念行事と、慶熙大学校との新たな交流の様子を紹介する。

日体大と中国・韓国との 学術・スポーツ交流

中国：北京体育大学／韓国：慶熙大学校



日本体育大学と北京体育大学は、1982年6月に「学術・スポーツ交流に関する覚書」を締結しました。その交流内容は、人的交流、文献交流、各種情報交換、単位の認定、視察・研究・調査の5項目にわたるものであり、そのなかでも、特に人的交流を中心として20年間交流を継続してきました。

これを記念して北京体育大学から、交流行事を行つてはとご提案があり、協議の結果、相互に大学を訪問して更なる両大学の交流関係の発展を図ることになりました。

10月21日～24日の日程で、本学から塔尾武夫前学長を始めとして4名が北京体育大学を表敬訪問し、11月21日～24日の日程で、北京体育大学から田野副学長、劉自力訓練競技処長、胡揚教授、劉金妹講師の4名を本学に招聘し、両大学の留学経験者などを交え、それぞれの大学において交流が行われました。

◆北京体育大学訪問

訪問団：塔尾武夫教授（前学長）

中嶋寛之教授（大学院研究科長）

科長）

谷金了正教授（学長室長）

随 行：三戸和明（学長室員）

■10月21日 北京到着

北京国際空港に到着、余学鋒外事処長他に出迎えられ、北京体育大学に直行し、早速、大学の施設、設備を見学した。図書館では2000年10月19日に日本体育大学図書館において両校の図書館における「相互協力に関する取扱要領」の調印の際に訪問された劉彩霞図書館長と再会できた。

■22日 表敬訪問

田野副学長を表敬訪問し、塔尾前学長は「日中国交正常化30周年の記念の年に両大学の交流20周年を迎えられ、大変喜ばしい。これまで11名が日体大から北京体育大学へ留学し、現在幅広い分野で活躍している」と述べられた。また、記念の品として富士山の絵（輪島塗）を進呈。また、田野副学長からは次のような言葉をいただいた。

日本体育大学・北京体育大学 学術・スポーツ交流20周年記念行事

・日本体育大学で学んだ留学生も、北京体育大学でがんばっている。

・2008年オリンピック北京大会の開催に向けて準備を進めている。

・アジア競技大会で活躍した北島康介くんが、日本体育大学の学生であることを聞いて驚いている。

・現在40カ国から200名の留学生を受け入れており、今後も活発に行きたい。

この後、日本体育大学への留学経験者との座談会が行われ、当時の様子になつかしく花が咲いた。

夕方からは、楊樺学長による歓迎会に招かれ、両校間の交流が益々活発化するよう推し進めることが話された。

■23日 北京観光

天安門、故宮、友誼商店、王府井、雑技鑑賞

■24日 成田到着





平成15年2月22日(土)、午前10時30分より、東京・世田谷キャンパス、深沢校舎・大会議室において「日本体育大学 慶熙大学校 国際交流協定調印式」及び「大韓民国 慶熙大学校 趙永植学園長 日本体育大学名誉博士称号授与式」が挙行されました。

本学名誉博士称号を授与されたのは、大韓民国、慶熙大学校趙永植学園長で、本学としては昨年度の、モンゴル

国、サンジベグジン・トゥムルオチル国家大会議議長に続く第二号の授与となりました。

式典は、まず「国際交流協定調印式」から開式され、谷釜了正学長室長より交流協定締結に至る経緯報告と交流の趣旨説明が行われ、趙永植学園長と長谷川正明学長により、交流協定書に調印が行われました。

引き続き、「名誉博士称号授与式」に移り、中嶋寛之大学院研究科長の学位授与報告で始まり、長谷川正明学長より学位記授与及び記念品贈呈の後、あいさつが行われました。その後、趙永植学園長から本学に対する記念品が贈られ、謝辞が述べられました。また、学校法人日本体育会古川敏治理事長よりご祝辞を賜りました。

閉会後、記念撮影が行われ、キャンパス内を見学されて本学を後にされました。

国際交流協定調印式及び名誉博士称号授与式

◇「国際交流協定概要」◇

- ◎教員相互の学術的・人的交流
- ◎学生相互の人的交流(交換留学)
- ◎学生相互のスポーツ交流

日本体育大学 慶熙大学校 国際交流協定調印式
大韓民国慶熙大学校 趙永植学園長 日本体育大学名誉博士称号授与式



大韓民国 慶熙大学校
趙永植学園長 略歴
(Young Seek CHOU)

- ・ソウル市出身
- ・1944年、本学の前身、日本体育専門学校を卒業
- ・1949年、慶熙大学校を創立
現在は9の単科大学と体育学部を含む20の学部、一般大学院として61の修士課程と51の博士課程、さらに14の専門大学院と35の研究所を有する
- ・法学博士をはじめ、31の名誉博士号を授与される
- ・国連平和賞、ユネスコ平和教育賞、韓国最高勲章など69の賞を受賞される



◆慶熙大学校招聘

訪問団：趙永植学園長、吳貞明学園長夫人、田炳冠教授、朴明鎮学園長秘書

■2月21日 成田到着

新東京国際空港に到着、谷釜学長室長が出迎えた。

■22日 交流協定調印式、名誉博士称号授与式

午前10時過ぎ本学を訪問、長谷川学長と会談の後、10時30分から調印式及び授与式に参列された。

式典には趙永植学園長と、日本体育専門学校の同期生の方々、また、韓国から本学へ留学中の学生も参列し、式典後は、記念撮影などを行い交流を深めた。

■23日 フリー

■24日 成田出発
新東京国際空港へ、塔尾前学長が見送りました。



◆北京体育大学招聘

訪問団：田野副学長、劉自力訓練競技処長、胡揚教授、劉令姝講師

■11月21日 成田到着

新東京国際空港に到着、谷釜学長室長が出迎えた。

■22日 本学訪問

午前は、西が丘にある国立スポーツ科学センターを訪問。2000年度まで本学大学院教授であった浅見俊雄センター長の説明により施設・設備の見た。2008年オリンピック北京大会

会の準備もあり、熱心に耳を傾けていた。

午後は、本学、東京・世田谷キャンパスを訪問、田野副学長から交流記念の掛け軸が長谷川学長へ進呈され、会談の後キャンパス内を見学した。

夕方からは、「交流20周年記念祝賀会」がキャピトル東急ホテルで開催され、本学から北京体育大学への留学経験者の参加を得て、思い出のひと時を過ごした。



■23日 国立オリンピック記念

青少年総合センター見学

午前中、代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターを訪れ、ここでもオリンピック北京大会に備え、施設・設備の見学と活用方法などの説明を熱心に受けていた。

午後からは、日本の文化に触れるべく浅草寺をお参りし、仲見世を散策した。

■24日 東京駅にて見送り

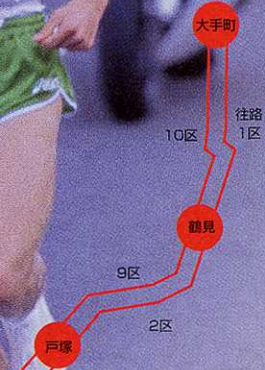
今後のスケジュールとして筑波大学の訪問が組まれており、東京駅にて見送りました。

箱根駅伝

正月早々から中継される「箱根駅伝」は、東京・大手町から箱根・芦ノ湖畔までの10区間、往復216.4kmを1日5区間ずつ2日間にわたって走るレースで、正月の風物詩にもなるほどお茶の間でも人気の高い、一種独特の雰囲気をもった大会である。

その第79回箱根駅伝が1月2日（木）～3日（金）開催され、20チームが白熱したレースを繰り広げ、駒大が連覇を達成した。我が日体大は9位に入り、7年ぶりにシード権を獲得した。日体大は中大の6連覇に次ぐ、5連覇（69年から73年）の歴史を持ち、9回の優勝を誇るが、ここ6年はシード権を逃して低迷しており、今回も予選からの出場となった。しかし、昭和24年の第25回大会から55年連続55回目の出場は輝かしい記録である。

今大会における7年ぶりのシード権獲得の背景とその意義を、菅原勲陸上競技部部長と別府健至駅伝監督に語っていただいた。



陸上競技部前部長
菅原 勲

日体大は69年～73年の5連覇を含む9回の優勝数を誇っていますが、ここ6年はシード権を逃し、低迷しています。そのため、98年10月のスポーツ局開設以来9年、駅伝は最重点強化種目として立て直しが図られてきました。今回、「シード権の獲得」という目標を

今回の成果は、「古豪復活」への一里塚。

ひとまず達成し、その成果がそれなりに現れてきたと言えます。ただ、シードから落ちて3年目には何とかシード権を取ってほしいという思いがありましたので、7年もかかってしまったのか、というのが正直な感想です。

しかし、今回の具体的な成果は、「古豪復活」への一里塚と言えます。確実にチーム力の底上げは図られてきてますし、スポーツ局のリクルーティング支援により、高い実績と大きな可能性を秘めた有力選手も集まりつつあるからです。優勝・準優勝を競える「古豪復活」に向けて、その地歩が一步一歩築かれていくと評価できます。

別府監督が駅伝チームに就任して4



駅伝監督
別府 健至

今大会は「強い日体大」に生まれ変わる大会と位置づけて、取り組んできました。ですから、7年ぶりに「シード権」を獲得し、最低限の目標はクリアできてほっとしています。

この成果の背景には、スポーツ局の強化策があります。99年・2000年のスポーツ局のリクルーティング活動が実り、全国レベルを経験した選手が下級生に

入ってきたのがやはり大きい、と思います。

「強い日体大」の頃は、常に優勝を狙っていたので、チーム内に優勝する雰囲気がある自然なものとして充滿してました。しかし、現在はそうした環境にはほど遠い。そのため、99年6月の監督就任以来、チームの志気を上げる雰囲気づくりに取り組んできました。しかし、過去3年間、11位と同じ順位です。でも、結果は付いてきていないが、選手個々の能力は確実に上がっている、と感じています。実際、今大会では、内容的にも8区が終わった段階で3位と69秒の差に接近しているからです。

ところが、その後が問題です。いつも選手に言うのですが、「ほとんど、どこ

年。今年終わると指導する学生が一巡します。その2年後を期待しています。強化計画が順調に行けば、再来年にはかなり優勝を狙えるところまでいける、と思っています。もちろん、それまでは、何とかシード権を保持し続け、もたらなければ困りますが。

最後になりましたが、選手を身近で励まして下さったご父母を始めとする家族の方々、そして、学長はじめ本学関係者、同窓会員、陸上競技部、陸校会OB・OGの皆様、驛傳倶楽部、健志会、スポーツ局の方々、その他平素からファンとして応援をいただいている皆様に厚く御礼申し上げます。ご支援・ご声援ありがとうございました。

最低限の目標はクリアできたが、意識の差が順位の差になった。

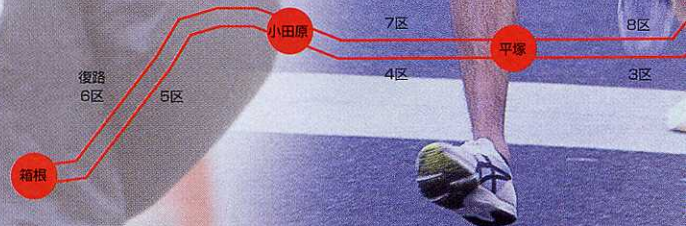
識の差が箱根の順位の差として出てくる。今回は、その差が本当に出てしまったと言えます。8区が終わった段階で4位までいきながら、最後はぎりぎり9位というのはまだまだ意識が低いと言えます。確かに、チーム力は底上げされてきてはいるものの、実際、最後にあのようにズルズルいってしまうのは反省すべき点だと思っています。

次の大会では、現2年生が中心メンバーになります。確実につないでいけば今回以上を狙えると思いますが、上位入賞となるには、復路もエース級選手を配置できる選手層の更なる底上げが必要になってきます。それが課題です。いずれにせよ、今年と来年が本当の意味で勝負の年となります。

日体大、 7年ぶりに シード権獲得!!

～古豪復活への足がかりとなるか～

日本体育大学



◆第79回東京箱根間往復大学駅伝競走・日体大成績◆

区間	距離	選手名	学年	出身校	記録	区間順位	通過順位
1区	21.3km	栗原 親也・④		栃木・佐野日大	1'05' 10"	15	14
2区	23.0km	山田 紘之・②		愛知・豊川工業	1'09' 44"	10	10
3区	21.3km	四辻 聖・②		兵庫・報徳学園	1'03' 51"	4	7
4区	20.9km	鈴木 直・④		大阪・清 風	1'04' 38"	12	8
5区	20.7km	森永 幸男・③		熊本・九州学院	1'12' 58"	7	6
往 路 成 績 (107.2km)							6位
6区	20.7km	解良 健二・④		兵庫・報徳学園	1'01' 32"	8	5
7区	21.2km	熊本 剛・①		兵庫・西脇工業	1'05' 52"	4	4
8区	21.3km	弘 潤一・②		山口・西 京	1'07' 25"	8	4
9区	23.0km	久野 正悟・③		兵庫・社	1'14' 12"	18	9
10区	23.0km	青野 幸明・③		愛媛・今 治 北	1'12' 09"	4	9
復 路 成 績 (109.2km)							14位
総 合 成 績 (216.4km)							9位



◆総合成績◆

①駒 大	11時間3分47秒
②山梨学院大	11・ 8・28
③日 大	11・12・52
④大 東 大	11・15・15
⑤中 大	11・16・27
⑥東 洋 大	11・16・56
⑦東 海 大	11・17・ 5
⑧順 大	11・17・13
⑨日 体 大	11・17・31
⑩中央学大	11・17・33
=以上、シード権獲得=	
⑪神 奈 川 大	11・17・57
⑫拓 大	11・19・ 5
⑬帝 京 大	11・20・17
⑭國 學 院 大	11・22・40
⑮早 大	11・22・42
⑯法 大	11・27・30
⑰亜 大	11・27・32
⑱関東学院大	11・28・37
⑲専 大	11・34・12
<オープン参加>	
▽学 連 選 抜	11・27・21

◆過去の箱根駅伝連覇校◆

大 学	大会	連覇数
早 大	1922～2連覇	
	1930～2連覇	
	1933～2連覇	
	1984～2連覇	
明 大	1924～2連覇	
	1928～2連覇	
日 大	1935～4連覇	
	1940※2連覇	
	1957～2連覇	
	1967～2連覇	
中 大	1950～2連覇	
	1955～2連覇	
	1959～6連覇	
日 体 大	1969～5連覇	
	1977～2連覇	
大 東 大	1975～2連覇	
	1990～2連覇	
順 大	1981～2連覇	
	1986～4連覇	
山梨学院大	1994～2連覇	
神 奈 川 大	1997～2連覇	
駒 大	2002～2連覇	

◆日体大の過去10年間の成績◆

年 度	順位・タイム	往⑧	復⑧
平成 5年	総合⑩ 11・29・09	往⑧ 5・43・34	復⑧ 5・45・35
6年	総合⑧ 11・22・25	往⑥ 5・41・50	復⑥ 5・40・35
7年	総合⑥ 11・14・00	往⑥ 5・39・22	復④ 5・34・38
8年	総合⑨ 11・24・22	往⑩ 5・40・31	復⑪ 5・43・51
9年	総合⑩ 11・38・38	往⑩ 6・03・08	復⑧ 5・35・30
10年	総合⑪ 11・22・40	往⑩ 5・47・15	復⑥ 5・35・25
11年	総合⑫ 11・30・55	往⑩ 5・44・25	復⑩ 5・46・30
12年	総合⑪ 11・25・37	往⑩ 5・39・45	復⑩ 5・45・52
13年	総合⑪ 11・30・15	往⑨ 5・53・25	復⑧ 5・36・50
14年	総合⑪ 11・23・36	往⑫ 5・47・20	復⑥ 5・36・16

【注】※は1940、43年の連覇(41、42年は大会中止)

箱根駅伝

陸上競技部駅伝チームは、予選会の不本意な成績にリベンジするかのように懸命に走り、総合9位の成績で7年ぶりにシード権を獲得した。しかし、その力走の裏には、たくさんの人たちの支えがあるのを忘れてはならない。選手だけがタスキをつないでいるのではない。出場出来なかった陸上部員やトレーナーチーム、応援団、チャリダー部、駅伝チームドクター、教職員、保護者会、陸桜会(OB・OG)、駅伝支援組織「驛傳倶楽部」等々、多くの人たちがそれぞれの思いを白いタスキに託しながら支えたからである。

今回は、特に箱根駅伝の裏方とも言える人たちにスポットライトを当て、駅伝主務、マネージャー、スポーツ局の医・科学サポートスタッフ、関東学連の幹事の6名に、箱根駅伝についてのそれぞれの関わりや、あまり知られていない裏方の仕事、ぶりを語っていただいた。



日本体育大学

関東学生陸上競技連盟

選手が持っている全ての力を発揮できる状態にするのが私の仕事です。



【スポーツ局医・科学サポートスタッフ】
コンディショニング・コーディネーター

河野 徳良

2年前からスポーツ局の重点強化指定種目及び重点強化指定選手に対しサポートしていますが、選手が目標とする試合で自分の持っている全ての力を発揮できる状態にするのが私の仕事です。具体的には選手を中心として監督、コーチ、アシスト、トレーナー、管理栄養士、学生トレーナー、そして必要に応じて医療機関との連携をとり選手のコン

ディショニング環境をコーディネートしています。普段はコンディショニングルームでアシスト、リハビリテーション、鍼灸、マッサージ等の施術行為も行っていますが、合宿等に帯同し、課題のトレーニング指導や、コンディショニング、傷害予防、ドーピング等に対する勉強会を行い選手自身の自己管理能力を高めることも行っています。

「箱根」当日は不安のある選手を走る直前までサポートするため、また同じ桜のマークをつけた私たちスタッフや何人かの学生が居るだけでも心理的効果があるため、往路は1区と5区、そして箱根に宿泊し、復路は6区と9区の選手をサポートし、その後ゴールに向かいました。

選手がベストの状態で臨めるようにコンディショニングしました。



【スポーツ局医・科学サポートスタッフ】
アシスト・トレーナー

齋藤 仁拡

昨年からスポーツ局のアシスト・トレーナーとして選手のサポートをしています。特に駅伝は、継続的にコンディショニングを行い選手の体調を把握し、より良い状態になり本番で力を出せるように心掛けています。今回、本番前に膝を傷め、出場も危ぶまれていた選手を直前までケアし、その選手が出場し期待以上の活躍をしてくれた事は嬉

しく思いました。

「箱根」当日、選手は1時間半〜2時間前にスタンバイし、ウォーミングアップを始め、そこで予期せぬアクシデントのために備えます。往路は復路を走る選手の練習とコンディショニング調整のため大学で待機し、復路は7区と10区に行きました。7区で選手の状態を禪が渡る直前まで見届け、その後、10区に移動しました。

選手にとって「箱根」は自分のパフォーマンスを披露する絶好の場なので、良いコンディショニングで臨めるよう、選手がベストの状態に近づけるようにするのが私たちの仕事ですが、今回は達成できたと思います。

白いタスキを支える人たちの働き

～古豪復活への足がかりとなるか～

チーム全員が悔いの残らないサポートとなるよう心がけていきたいと思います。



【スポーツ局医・科学サポートスタッフ】
管理栄養士

安達 瑞保

管理栄養士として、スポーツ局の重点強化指定種目である駅伝を2年前から見えており、選手のコンディショニングにおける栄養面についてサポートするのが私の仕事です。
試合にベストコンディションで臨むためには、当日の食事だけでなく、それまでのコンディショニングにおける、普段の食生活がとても大切です。そ

こで、選手が合宿所で毎日食べている食事について、監督、委託業者や調理師の方とミーティングを行い、選手の好みも活かしながら、選手に必要な栄養素をきちんと補える食事にするために献立を調整しています。また、合宿に帯同し、貧血予防、補食としての間食や水分補給についての勉強会を開いたりもしました。

「箱根」前は、監督の要望により、特に風邪予防と体重管理をポイントとした献立調整を行い、当日までの体調管理について、勉強会や食事についてのアドバイスを行いました。

選手が雰囲気になじめないよう、中継所で選手の付き添いをしました。



マネージャー

保田 健吾

(03年 社会体育学科卒)
【神奈川県立大清水高校出身】

3年間、選手として頑張ってきたが、膝を故障して練習が思うように出来なかった時、監督から「中途半端に4年間やつても、何も残らないぞ。マネージャーの仕事は1カ月間手伝いながら考えてみてくれ」と言われて決心し、4年生から下級生と一緒にやり始めました。

大会当日は、2日間とも4区・8区

の平塚中継所にトレーナーやOBの方と詰め、選手の付き添いをしました。各ポイントの待機テント内は他大学の選手も一緒に、各大学の応援者やマスコミ関係者が大勢いて、選手が雰囲気になじめないようです。特に華の2区などは賑やかなので、それだけで舞い上がってしまいます。だから、選手を孤立させないよう、各ポイントに3名～4名付き添います(2区は6～7人)。

1年間しかやりませんでした、編集委員長として「箱根駅伝小史」の作成にも携わることができ、いろいろ勉強になりました。

選手として箱根路を走れなかったけど、主務として「箱根」に携われて良かった。



駅伝主務

漆原 秀弘

(03年 体育学科卒)
【神奈川県・麻布大学附属瀧野高校出身】

2年生の春からマネージャーをやっています。主な仕事は、練習日誌をつけたり、選手のタイム計測、練習時の選手への給水、合宿や大会の準備、日体大長距離記録会の運営準備などです。

大会当日は、各中継所でそこから走る選手に付き添うために、大手町→戸塚中継所→小田原中継所、そし

て翌2日目は鶴見中継所→戸塚中継所→大手町と、スポーツ局のトレーナーの先生と一緒に車で回っていました。
日体大はこの5年間、全日本大学駅伝(出雲大学駅伝)に出場できず、箱根駅伝も予選会からのスタートになっていきます。今回こそは、第80回箱根駅伝と出雲大学駅伝への出場権を獲得して卒業したいと考えていたところ、最後の年にシード権が取れ、思い出に残る最後の舞台になりました。選手としては箱根路を走ることができませんでしたが、主務という形で「箱根」に携われ、3年間やってきて良かったと思います。

実は、箱根駅伝は学連に加盟する大学の学生たちが準備・運営する大会です。



関東学生陸上競技連盟副幹事長

後藤 光美

(体育学科4年)
【神奈川県立城山高校出身】

箱根駅伝は、日本テレビや読売新聞が主催していると思われがちですが、関東学生陸上競技連盟(学連)の主催なんです。学連は、裏方として関東の大学陸上の主な大会の準備、当日の運営を行う学生自治の団体です。関東・C・記録会・女子駅伝、新人戦・箱根予選会・箱根駅伝など、各大会を学生たちが準備し、当日の競技も運営します。

中でも、箱根駅伝はビッグな大会で、その準備運営が大がかりです。コースの下見やポイント間の距離の計測、中継所の周辺やコース沿い管轄内の警察への挨拶、大勢のボランティアや審判員の手配と配置、当日の交通整理や選手が入ってくる中継所での準備等々。大会当日はみな各中継所に分担配置され、私は平塚中継所にいました。

私は1年の時より学連メンバーなので、日体大陸上部に属しているながら応援できず、主催者側の学連の立場に立つて全体を見なければなりません。今年は参加校が20校になり、絶対繰り上げがあると思いましたが、何年ぶりかで繰り上げもなく、無事終わって良かった、というのが主催・運営者としての喜びです。

から14年ぶり、アマチュア横綱の座に!!

座談会

大相撲の世界

01年卒業の力士「垣添」が1月場所所で5勝2敗の成績をあげ、3月場所から十両東11枚目の関取に昇進した。本学初の十両力士の誕生である。また、昨年12月、全日本相撲選手権で大西君(武道学科現4年)が優勝し、日体大から斉藤コーチ以来14年ぶりのアマチュア横綱の座についた。二人の育ての親で、名伯楽としても名高い塔尾教授(前学長に、二人の相撲生活や今後の抱負などを率直に聞いてもらった。

塔尾…徹君はケガの問題があったが、やっと克服できて関取になった。先ずは、おめでとうございます。それから、大西君は昨年12月の全日本選手権で個人優勝を果たし、アマチュア横綱の座についた。おめでとう。たまたま三人は大分県出身で、しかも二人の高校時代の恩師は私の高校・大学時代の後輩でもあり、僕からすれば二人は孫弟子になるわけです。大分県の相撲指導者の8割は日体大の卒業生で、みんな喜んでおり、我々も県に恩返しできたと思えるところです。ところで、ケガの方はもういいの？

塔尾…角界でも問題となつていっているように、最近では力士のケガが多い。これから上位に行くためにも、一日の稽古が終わったら、体のケアをしないといけない。気がついて下さい。ところで、徹君が大相撲に入ろうと思った動機は？また、その際、武蔵川部屋を選んだ理由はあったの？

垣添…大学3年の頃、大相撲を観ていて、できれば自分もこんな場所で相撲を取ってみたいという気持ちが強くなりました。その後も、その気持ちで失せることがなかった。これはプロに行くしかない、と思ったのです。部屋は、ずっとお世話になっていたこともあり、プロ入りするなら武蔵川部屋しかない、と思っていました。

塔尾…学生時代、優勝した世界選手権大会で痛めた膝がもとで稽古ができず、半年後にやっと幕下15枚目で初土俵を踏めたものの、休場しなければならなかった。ケガさえなければ、もう一年早く関取になれた筈なのに、本当に悔しい思いをしたと思います。しかし、それを人生の糧として、これから立派な関取になつてほしい。実際にはその間の2年間は、気持ちとしてはどうでした？

垣添…とにかく体を動かさなければ、という気持ちの方が強かったので、マイナスに考えることはありませんでした。治るという気持ちでやっていました。

大西…稽古においてアマチュアとプロは、どこが一番違いますか？

垣添…やはり、雰囲気と重さだね。稽古の雰囲気はア

「稽古精進」「無事、これ名馬」の言葉を将来ある二人に贈りたい。



塔尾武夫

PROFILE

(どうの・たけお) ●1934年生まれ。大分県立宇佐高校卒業。1958年3月体育学科卒業。58年4月日体大体育学部助手。76年4月同教授(現在に至る)。98年4月同大学院教授(現在に至る)。98年4月から01年3月まで同大学長職に在任。現在、財団法人 日本体育学会 評議員、財団法人 日本体育学会 体育方法専門分科会 世話人代表、日本スポーツ方法学会 副会長、体力・栄養・免疫学会 副会長、日本武道学会 副会長、社団法人 全国大学体育連合 副会長、財団法人 日本相撲連盟 副会長などの要職にある。日本学生相撲連盟より71年・81年・02年に感謝状を受賞、日本相撲連盟より95年表彰状を受賞、97年には日本武道協議会より武道功労章を受章。

マチュアと全然違って、厳しい。学生の頃は少し休んでもいいだろうという気持ちだが、相撲でご飯を食べない。こうと思ったら、稽古してより強くなければならない。だから、みんな張り詰めた中で、稽古している。横綱・大関の稽古を初めて見た時は、ビックリしたね。塔尾…学生の甘い気持ちと違い、やはりプロの力士は職業として命を懸けていくという気持ちだから、稽古やモノの考え方に厳しいものがあるんだろうね。そうした相撲部屋の生活がどういうものか、ほとんどの人は知らない。この機会にぜひ聞かせてください。

垣添…午前中は稽古で、一番下の方は5時半から稽古場に出て、幕下は6時半までに、番付の下に関取衆は7時過ぎくらいに出てきて、そして、最後に横綱が出てきて稽古するようになっています。また、地下にトレーニングルームがあり、二日に一回、稽古終了後、午後からトレーニングをします。十両に上がるまではチャンコ番があるので、幕下は6時半までなので、それまでに起きてチャンコを作っていました。就寝は、普通10時、10時半位です。

塔尾…その他、下の者はどんなことをするのか？

垣添…関取衆の付け人になつて、日常生活のこまごまとした用事をやります。場所に入ると「あけ荷」を持つたり、自分も持ちましたよ。今度は、幕下から十両になつて、逆に二人付くことになりませんが、特殊な世界ですよ。落ちればまた、あけ荷を持つことになりま

すが。



日体大卒初の十両力士誕生!! 日体大



垣添 徹

PROFILE

(かきぞえ・とおる) ●1978年生まれ。

2001年3月武道学科卒業。

大分県立宇佐産業科学高校時代、インターハイ3位、東西対抗の無差別級・重量級の2階級で優勝。

日体大入学後も、1年次に東日本学生相撲選手権の新人戦で優勝、2年次にアジア大会優勝、3年次に世界選手権で準優勝。4年次には東日本学生相撲選手権団体戦で日大の17連勝を阻んで日体大を初優勝に導き、国民体育大会成人Aで個人優勝、インカレでは念願の個人優勝(学生横綱)を果たすなど、学生相撲で17回優勝(歴代3位)の輝かしい記録を残す。

2001年武蔵川部屋に入門、日体大卒の初の力士になる。しかし、ケガで初土俵は遅れ、01年9月場所(幕下付け出し)。03年1月場所、幕下東3枚目で5勝2敗の成績をあげ、この3月場所より十両東11枚目に昇進。

得意技: 突き・押し。戦歴: 39勝16敗12休(10場所)。身長175cm、体重126kg。



大西雅継

PROFILE

(おおにし・まさつぐ) ●1982年生まれ。

武道学科4年相撲専攻、相撲部。

大分県立中津工業高校出身。

高校時代、インターハイ団体戦3位。日体大入学後、稽古に精進し、3年生になって力を一気に開花。

2002年6月、東日本学生相撲選手権個人戦で優勝、9月、東日本学生相撲個人体重別選手権無差別級で初優勝。

12月、全日本相撲選手権大会では、00年度アマチュア横綱の内田(日大4年)を破り優勝、日体大からは斉藤一雄(現相撲部コーチ)以来14年ぶりのアマチュア横綱になる。本年度より、主将。個人優勝回数: 3回。得意技: 突っ張り。身長175cm、体重130kg。

プロの稽古はビックリするほど、アマチュアと違って厳しい。

団体・個人戦の優勝を目指し、突き押し相撲をもっと磨きたい!

塔尾…今度は大西君に聞きたいが、これからどんな相撲を目指していきたい?
大西…突き押し相撲をもっと磨きたいです。
塔尾…ケガで徹君も取れなかったアマチュア横綱の座を、後輩の大西君が取ってくれた。あの時はどういう気持ちで臨んだの?
大西…正直、あまり優勝を意識しませんでした。ただ、トーナメントの一人一人の対戦相手をどうするかを考えるだけで、確かに、優勝したいという思いはありました。が、そのことをあまり意識しませんでした。
塔尾…あの国技館での相撲は僕も観ていたが、今までの君の相撲の中で一番リラックスしていたように思う。

塔尾…大西君は今度、キャプテンになったが、主将としての目標は?
大西…やはり、学生選手権での団体優勝です。個人的には個人優勝です。
塔尾…自分も心がけてきたつもりですが、僕らの世界はやはり、背中で指導しなければいけない。主将は、背中であつていこうという気持ちで指導していかなければ、引つ張つていけないよ。主将自身があぐらをかいて、後輩にあれこれ命令して、本人が何もうらないのは良くない。無言の内に背中で引つ張つていってほしいね。
垣添…大西も普通にいけば、個人タイトル10個は取れるでしょう。今度4年生なので、チャンスは十分にありますが。今年の団体・個人戦が楽しみです。もっとも、それより俺が落ちないようにしなきゃ。この世界は、この位置に定着するわけですからね。ちょっと成績が悪ければ、ガクンと落とされますから。

塔尾…さっき部屋の女将さんも言ってたけど、そういうマイナス思考はダメなんだよ。常に、前向きにならんくちや。落ちるわけがない。先場所だって、二人の十両に勝っているじゃないの。
垣添…そうですね。頑張ります!
塔尾…そう、頑張つて下さい。三役を目指してもらおうと思つているのに、11枚目で心配していたら、どうするの!
垣添…絶えず、毎日、心配しています。誰もが、こうした不安を通していらっしゃるけど、やはり考えちゃいますね。
塔尾…しかし、徹君が恵まれているのは、上のクラスの関取がいないと、十両の人の力量はどうだろうかと、不安にもなるが、この部屋には十両・幕内の関取だけでなく、大関・横綱までいるわけだから、稽古で自分の実力を計れる。
垣添…そうですね、言うことなんです。毎日、稽古を続けてもらってますから。
塔尾…僕は「稽古精進」という言葉が好きで、日本武道協議会から武道功労章を貰った時に「座右の銘」として色紙にその言葉を書いたし、また「無事、これ名馬」という言葉も好きです。最後に、この二つの言葉をあなた方に贈りたいと思います。
ところで二人ともアマチュアの中でも恵まれた体格ではない。プロには大きい人が多いが、これからも今までの根性で頑張つてほしい。今の自分に満足せずに、更に精進努力して、一つ一つ上を目指して頑張ってもらいたいと思います。

(2月20日、武蔵川部屋にて) 取材協力/武蔵川部屋

目指す相撲

かなりの給金を貰うだろうから、それはもう必死です。すよね。

今後の抱負・目標、将来の夢

いい出足と突っ張りが出ていたね。特に、内田君(現在、幕下4枚目)との相撲なんか最高だった。次の石川県の対松本戦も、相手も突っ張り専門だが、あの突っ張りは良かったね。ところで徹君、武蔵川部屋には前に出る先輩関取が多い。徹君は突き押し相撲が得意だけど、今後はどんな相撲を目指すの?
垣添…やはり、スピードですね。もつともっとスピードと馬力を付けて、勝負してみたいです。馬力のある人が多いですから。自分の場合、そんなに体重を増やしてもしょうがないけど、140kg位はほしいですね。

塔尾…さっき部屋の女将さんも言ってたけど、そういうマイナス思考はダメなんだよ。常に、前向きにならんくちや。落ちるわけがない。先場所だって、二人の十両に勝っているじゃないの。
垣添…そうですね。頑張ります!
塔尾…そう、頑張つて下さい。三役を目指してもらおうと思つているのに、11枚目で心配していたら、どうするの!
垣添…絶えず、毎日、心配しています。誰もが、こうした不安を通していらっしゃるけど、やはり考えちゃいますね。
塔尾…しかし、徹君が恵まれているのは、上のクラスの関取がいないと、十両の人の力量はどうだろうかと、不安にもなるが、この部屋には十両・幕内の関取だけでなく、大関・横綱までいるわけだから、稽古で自分の実力を計れる。
垣添…そうですね、言うことなんです。毎日、稽古を続けてもらってますから。
塔尾…僕は「稽古精進」という言葉が好きで、日本武道協議会から武道功労章を貰った時に「座右の銘」として色紙にその言葉を書いたし、また「無事、これ名馬」という言葉も好きです。最後に、この二つの言葉をあなた方に贈りたいと思います。
ところで二人ともアマチュアの中でも恵まれた体格ではない。プロには大きい人が多いが、これからも今までの根性で頑張つてほしい。今の自分に満足せずに、更に精進努力して、一つ一つ上を目指して頑張ってもらいたいと思います。



前田 誠一

(03年体育学科卒)

世界の強豪
スペイン・プロリーグが
僕を成長させた。

激しい接触プレイを常とするハンドボール。日本ではサッカーや野球ほど脚光を浴びていないが、いくつかのボールゲームの要素や格闘技としての要素も兼ね備え、スペインでは人気スポーツの一つである。五輪でのメダル獲得という高い目標を持ち、日々成長する前田君にスペイン・プロリーグでの体験を中心に話を聞いた。

からね。

— あなたのポジションを教えてください。

前田●僕は左利きなので、中学校から一貫して右のバックプレーヤーです。ハンドボールではフロッターといつて、走り込んできて上からロングシュートを打つポジションになります。ハンドボールでは左利きの選手が少ないので貴重なんです。シュートを放ったボールが見えにくい、とよくキーパーから言われます。

— スペインのプロリーグでプレイをしたということですが。

前田●ハンドボール協会には、選手を1年間海外に派遣するアテネ計画という選手強化プロジェクトがあります。監督の薦めもあり、それに申請し、スペイン・プロリーグの「任天堂ガヴァ」というチームに所属しました。誘いがあつた時は、日体大のキャプテンだったのでいろいろ悩みましたが、同期の友人から「お前はいずれ世界に出る選手なんだから、チームのことは心配しないで行って来いよ」と励まされ決断しました。

— スペインでの生活は順調だったのですか？

前田●やはり言葉の問題がありました。前もって所属チームが決まっていた訳ではないので、スペイン語学校に通いながら11チームの入団テストを受けたのです。スペインはサッカーの次にハンドボールが人気競技で、プロリーグも1部から8部まであります。私は3部の「任天堂ガヴァ」に合格したのですが、3部の実力は

日本の実業団トップクラスですね。食事でも苦労しました。チームにはドクターと栄養士がいますが、その日に摂る食材について細かく指示されますので、それを自分で料理をして食べます。リーグの方はチームのポイントゲッターとして活躍できたと思います。でも20試合くらい消化した時点で大きな怪我をしてしまい、帰国をして手術しました。

— スペインの経験で、何を得ましたか？

前田●スペイン選手のハングリー精神に学びながら、自分自身も遅くなったと学びます。一番びっくりしていたのは両親



PROFILE

●まえだ・せいいち●
1979年北海道生まれ。
埼玉県・浦和学院高等学校出身。
03年体育学科卒。
中学校からハンドボールのエリートコースを歩む。大学在学中に、2度のインカレ優勝に貢献。大学4年次に進級する年に1年間休学し、スペイン・プロリーグで活躍する。オリンピックでのメダル獲得の中心メンバーとして、将来を嘱望されている。卒業後は、プロ契約で大崎電気に。ポジション：右バックプレーヤー（フロッター）。左利き。身長184cm、体重80kg



— 最後に、今後の抱負を聞かせてください。

前田●大崎電気とプロ契約をすることが決まっています。実業団で更にレベルアップして、アテネ、そして北京のオリンピックではメダル獲得を目指します。

(3月1日、横浜・健志台キャンパスにて)



有元 皆歩

(体育学科4年)

守備の要、 チームワークの要として 奮闘する新キャプテン。

オリンピックや世界選手権での日本チームの活躍もあり、人気上昇の女子ソフトボール。本学からも多くの全日本選手を輩出している。今年をプレイヤーとして最後の年にしたいとする有元さんだけに、新チームを率いる新キャプテンとしての特別な思いがあるのではなかろうか。「インカレでの優勝しか考えていない」と熱く語る有元さんの、チーム強化の戦略とは…。

「ソフトボールを始めたのはいつ頃からで、キッカケはどのようなことだったのですか？」
有元●中学校の1年生から始めました。キッカケは、姉もソフトボールをやっていたことと、小学校までバレーをやっていたのですが、ちよつとイメージを変えたいと思ったこともありま。中学時代は主に捕手で、高校時代から外野手になりました。高校1年生の時にインターハイで優勝しました。

―日体大に入学した動機は？

有元●大学進学については前から決めていましたが、ソフトボールを続けるのであれば、強い大学でやりたいと思っていました。他にも東京女子体育大学など強豪チームはありましたが、周りの薦めもあり日体大に入学しました。実は、高山樹里選手(現豊田自動織機)が日体大出身だったことは知りませんでした。入学してから、日体大出身で有名な選手がいっ

ばいることを知ったのです。

―ソフトボールの面白さと難しさについて話していただけですか？

有元●ひとつには団体競技としての面白さがあると思います。突出した選手が1人いてもなかなか勝てませんからね。他の団体競技に比べ、よりチームワークが要求されるスポーツだと思います。それと同時に、1対1の勝負があるということ。例えば打者と投手の場合は、配球を読んだり、逆にタイミングをはずされたりということがあります。それから、打者と三塁手の駆け引きもあります。ソフトボールの場合、三塁線に転がすセフトバントを多用しますから、三塁手は常にそれに備えているのです。ソフトボールは、結構頭を使うスポーツなんです。その面白さが逆に、難しさでもあるということですね。

―新チームのキャプテンに就任されたそうで、どのようなチームを目指しますか？



※本誌表紙を飾る

有元●今は、インカレでの優勝しか考えていません。でも、新チームには突出した選手がいなくて、それをカバーしていくには、チーム全体の底上げを図り、今まで以上にチームワークを重視していかなければなりません。キャプテンである私自身が直接どうのこうのということではなく、それぞれ役割を持ったチームメイトと協議してまとめていきたいと考えています。キャプテンとしての権限と責任の重さについては理解していますから、しっかりと自分の意見を持ってチームに貢献していくことはもちろんです。当面は、シーズンまでに、選手個々で強化を図り、チーム全体でレベルアップしながらチームワークを作っていくことだと思います。その為にも、私自身がレベルアップし、守備の要として、またそこで1本欲しいという時に確実に打てる選手に成長しなければなりません。

―最後に、将来の夢を聞かせてください。
有元●プレイヤーとしては、大学を最後

第33回関東大学男女ソフトボール選手権大会



PROFILE

●ありもと・かいほ ●1981年埼玉県生まれ。
埼玉県・星野女子高等学校出身。
中学校からソフトボールを始め、インターハイ優勝を経験する。
新チームではキャプテンに就任し、俊足1番でチームを引っ張る。
外野手(センター)、右投げ・左打ち。身長156cm。

にしたいと思っています。教員としてソフトボールの指導にあたりたいという気持ちもありますが、子どもたちの純真無垢な心に触れながら障害児教育に携わることも視野に入れ、現在は公務員を目指して勉強しています。

(3月3日 東京・世田谷キャンパスにて)



第33回関東大学男女ソフトボール選手権大会

難波 英樹さん

ナンバ接骨院院長
学校法人日本体育会 日体柔整専門学校講師

[1978年3月武道学科卒業]

PROFILE

(なんば・ひでき)

1955年岡山県生まれ。倉敷商業高校卒。

高校時代、岡山県1位の成績でインターハイ・国体に出場。教員を目指し、74年4月武道学科に入学。翌年4月、2年次の時、日体柔整専門学校に入学。77年3月同専門学校を卒業し、柔道整復師の資格を取得。1978年3月武道学科卒業。在学中は柔道部に所属し、団体のレギュラー選手としてインカレ等の大会に出場。卒業後、西ドイツ・ケルンにクラブチームの柔道指導員として2年半滞在。帰国後、福島接骨院で助手として6年間臨床経験を積み、88年に開業。現在に至る。

92年より日体柔整専門学校講師（柔道整復実技と柔道を担当）。現在、大田区柔道接骨師会副会長、同区柔道会常任理事。

柔道6段。柔道審判員B級ライセンス。



スポーツトレーナーを目指すなら、日体大で学んだことに、さらに医療的知識と技術を日体柔整でプラスしてほしい。

「柔道整復師」という言葉を聞いたことがあるだろうか？この言葉に聞き覚えがなくても、骨折や捻挫を治療する「接骨院」なら知っているに違いない。柔道整復師（以下、「柔整師」と呼ぶ）とは、「接骨師」や「骨つぎ」の正式名称で、打撲・捻挫・脱臼・骨折などの損傷を回復させる療法（「柔道整復術」）を施術することのできる国家資格をもった人である。日体柔整はその養成校で、日体大と共に学校法人日本体育会の傘下にある学校である。この学校は1973年、故・清水正一・元日体大学長の発意から開設され、設立当初は深沢に校舎があった。難波さんは、その3期生である。

難波さんは教員を目指し、74年日体大に入学する。柔道部に所属し、2年生から3年間団体のレギュラー選手としてインカレ等の大会に出場し活躍した。柔道世界チャンピオンの山下泰裕選手が東海大に在学中の時代である。しかし、難波さんは大学2年の時に日体柔整に入学する。選手として忙しいのに、何故？柔道部の師範でもあった清水元学長から、「柔道をやる者は、教職の現場で応急的な措置ができないといけない」との指導があったからという。「自分自身、中学時代に骨折や左肩の脱臼をし、ケガには苦勞してきたこともあり、体育教師になった時にもいと思ったのです」。その指導もあり、当時、同級生50名の3分の1が日体柔整に入学したという。当時は、夜間2年制（現在、昼間部・夜間部3年制）だったが「選手でしたし、夜、学校に行くのは正直、時間的にもきつかったですね」。でも、入学した全員が頑張り、資格を取ったという。

しかし、一直線に柔整師の道に進んだわけではない。卒業後、「生涯の一番の師」とおっしゃる清水先生から「クラブチームで指導してみないか」と誘われ、西ドイツのケルンに柔道の指導に2年半行くことになる。遠回りのようだが、「当時、ケルン体育大学（現、ドイツスポーツ大学ケルン）に留学されていた体操の荒木先生やハンドボールの北川先生、また、ドイツ・ブンデスリーグFCケルンサッカーの奥寺選手方々、いろんなスポーツ人と知り合えたし、外からの日本を見て見聞を深めることができ、今に役立っている」と語る。

柔整師の道を進むことにしたのは、帰国後の25歳の時。「福島英夫先生（現、日体柔整専門学校附属日体接骨院所長）の門を叩き、研修生として2階に住み込み、6年間臨床経験を積みました。柔整師は臨床経験が大事なんです。ケガにおいて同じ症例はありません。同じように折れても、百人百様違う。ずいぶん勉強になりました」。そして、31歳で開業することになる。以来15年経つが、この職業を選んで良かったという。「痛みを訴えてみえる患者やケガをしている患者が自分の施術で良くなる。その姿を見る時が一番の喜びです。それは、教員では味わえなかったことだと思います」。

ところで、教員（の道が「狭き門」になっている現在、トレーナーやスポーツ指導員の職業を目指す学生が増えてきているが、そうした後輩に難波さんからエールをいただいた。「日体大に入学したからには、体育人としての専門性を生かせる職種に就いてほしい。そのためには在学中にしっかりと勉強してほしい。そして、トレーナーを目指すことや、もっと勉強したい人は、日体大生のためにつくられた日体柔整に入学してほしい。必ず、将来プラスになりますから」。

（3月3日、ナンバ接骨院にて取材）

日体大からもマスコミの仕事に就いている人は、過去何人もいます。しかし、アナウンサーになった人は数少ない。その日体大卒のアナウンサーが川村綾さんである。彼女は、現在、TV朝日系列局の静岡朝日テレビ(SATV)のアナウンサーとして、天気予報、情報番組のリポーター、夕方のニュース中の「スポーツコーナー」などの企画から制作までを担当している。4月で入社3年目の新人アナウンサーであるが、新人らしからぬ落ち着いた雰囲気です。内のお茶の間に人気が浸透している。

SATVでは、夏の高校野球、静岡大会を中継している。彼女はそのリポーターを2年間担当してきたが、「炎天下の中、両校のスタンドを駆け回り回つてのリポーターは正直、辛いと思うこともありますよ」と言う。「体力・精神力勝負ですかね。幸い、大学時代に鍛えられたのでどちらにも自信があります」と言う。また、監督インタビューなどでは日体大卒の肩書きが生きてくる場面もあるという。「高校野球の監督は日体大卒の方が多いんです。新米リポーターが取材してもなかなか話してくれない監督さんでも、私が日体大卒という話に及ぶと、気さくに話してくれるんです。卒業しても強い仲間意識、それは日体大の良さですね」。

また、アナウンサーの仕事はカメラを見て話す、一方通行の仕事。「常に、どう伝わったか、どう思われているか、不安」と言う。川村さんの目標は「人の心に触れることのできるアナウンサー」。だから、「メールやFAX・手紙などで、反応があったり、"あれ良かったです"、"感動しました"と言われた時が、一番嬉しい」と言う。そして、将来は「スポーツキャスターなど、スポーツ関係に携われたら最高だな」と語る。

そんな川村さんは、大学時代からアナウンサーを目指して勉強してきたわけではない。テニス部に所属し、4年生のインカレまで文字どおりテニス漬けの毎日だった。そのため就職活動を見逃し、偶然、朝日新聞の求人広告欄でSATVの募集記事を見て応募した。450名を超える応募者のほとんどがアナウンサー学校に通っている中であつて、何一つ予備知識のないまま受験したが、ただ一人、彼女だけが採用された。本人は、「もう宝くじは当たらないだろうな、と思う」と冗談めかして言うが、磨けば光る原石を予感させたからに違いない。

仕事上やプライベートで「日体大のくせに」と言われるのが一番悔しい」と語る負けず嫌いの川村さんは、「日体大がすごく好きで、誇りも持っている」。だから、今でも「可愛い後輩達に会いに日体大に行く」という。そんな母校愛に溢れた彼女が最後に後輩達に会いに日体大に行くという。そんな「大学」の2・4年間、本当に大事だと思ふんです。目標が見つからず遊んでも何をしてもいい。でも、たった一つだけでも、自分の中に自信になるモノがあれば、その時間は無駄じゃないはずなんです。私が就職試験で役立ったのは、日体大に入学して、テニスをしたことですね。自分の言葉で言えるモノがある、というのは強いんです。きっとそれは今後の人生にも役立つはずですから」。

(3月8日、静岡朝日テレビにて取材)

日体大で体力・精神力・人間関係を培ったからこそ、
今でも色々と生かされる場面がある。

川村 綾さん

株式会社 静岡朝日テレビ <http://www.satv.co.jp/>
コンテンツ局アナウンサーセンター

[2001年3月社会体育学科卒業]

PROFILE

(かわむら・あや)

1997年4月、短大体育科に入学

1999年4月、大学社会体育学科に編入学

2001年3月、同学科を卒業し、同年4月(株)静岡朝日テレビ入社

在学中は、テニス部に所属。インカレ出場を目指す。関東学生大会ベスト16位で、出場できず。3年次の秋から4年の秋まで主将を務める。

現在、テニスは趣味でやる程度。ジムに通い、スイミングを日課としている。

好きな言葉は「義理人情」。





【教職志望者必読】

総合的な学習の時間

学習指導要領の改訂により、小・中学校において「総合的な学習の時間」が02年度より完全実施になりました。03年度からは高等学校でも実施されます。

しかし、具体的な学習内容が特に決められていないため、教える現場では試行錯誤の渦中にあります。

そこで今回は、その創設の背景や基本的な考え方を本学教授の中野重人・井筒次郎両氏へお聞きするとともに、本学に体験学習で01年度から来校している上野原中学校（山梨県）の教師・生徒への取材を通して教育現場での取り組みもレポートしていきたいと思います。そのことにより、本学において実施されている「総合演習」を履修している教師を志す学生の皆さんが、自らがより深く体験し、学んでいく手立てとなれば幸いです。



井筒次郎 教授



中野重人 教授

第1部

「総合的な学習の時間」って、何？

子どもたちの生きる力と新学習指導要領

「子どもたちが変わる」

そう思うだけで、胸が躍る。

学校は、アナタで変わります。

これは、新学習指導要領パンフレット（教師向け）の冒頭の言葉です。アナタとは教師のことであり、教師を志す学生のみなさんにも通じるものであると思います。

新学習指導要領は、2002年4月からの完全学校週5日制の下、各学校が「ゆとり」の中で「特色ある教育」を展開し、子どもたちに新学習指導要領に示す基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせることはもとより、自ら学び自ら考える力などの「生きる力」をはぐくむことを基本的なねらいとしています。具体的には、授業時間数の縮減と教育内容の厳選、個に応じた指導の充実、体験的・問題解決的な学習活動の重視、選択学習の幅の拡大などが挙げられています。もう一つ大きな施策として総合的な学習の時間の創設があります。

「総合的な学習の時間」創設の背景

新学習指導要領に総合的な学習の時間の創設が具体的に盛り込まれた背景には、1989年3月に改訂された学習指導要領（旧）において、小学校低学年に生活科が新設されたことが背景にあったようです。学習指導要領の策定に関与した中野重人教授（教職教育）は、その経緯について「具体的な活動や体験を通して、生活上必要な習慣や技能を身につけさせ、自立への基礎を養うことを目標として、生活科が新設された

わけです。最初は賛同いただけなかったところもありましたが、現実には子どもの元気でいきいきとした姿がそこにあるということ、それならば低学年に限定しない教育活動をとということ、その後、中央教育審議会を中心として検討（答申）を重ね、今回の総合的な学習の時間の創設につながってきた」と語っています。

「総合的な学習の時間」の意義と基本的な考え方

総合的な学習の時間では、横断的・総合的な課題について、自然体験や社会体験、観察・実験、見学・調査などの体験的な学習、問題解決的な学習を行うとしています。その学習内容や指導方法の詳細や各学校の具体的な対応については明記されていません。中野教授は「当初は小学校6年生までを考えていたのですが、中学校も、いや高等学校もということになりました。やはり、先生が教科書で教えたことをただ「はいはい」と聞いているのではなく、児童・生徒自身が何かを求めて、自分の体験を通して生きる力をはぐくんでいけるような教育活動を、この総合的な学習の時間に求めたのだと思います。しかし、総合的な学習の時間の具体的な内容については特に決めておらず、それぞれの学校の創意工夫によって実践すべきものである」としています。更に「数学の先生、国語の先生、体育の先生などがそれぞれの教科の枠内で指導するというのではなく学校全体、学年全体で、子どもたちと先生が一緒になってテーマを設定していくことが重要であり、今までの学校教育における教科書を中心として知識を学ぶということから、体験を通して生きる知恵を学んでいくことがより重要になつてくる」と強調しました。

いくつかの課題について

新学習指導要領の実施に伴い、社会的に論議の的となってきた学力低下の問題や評

■平成15年度『総合演習』テーマ一覧（順不同）

村上 修	「現代の子どもの研究（地域・家庭・学校の役割を考えつつ）」
本間啓二	「キャリアガイダンス」
森川貞夫	「スポーツを通じての地域交流、世代間交流を考える」
志沢邦夫	「伝統文化交流」
監物永三	「オリンピックと（体操競技を中心とした）国際親善、比較スポーツ文化、異文化コミュニケーション」
千葉吟子	「オリンピックと（体操競技を中心とした）国際親善、比較スポーツ文化、異文化コミュニケーション」
関口 脩	「生きる力について」
滝沢康二	「発表力とディスカッションの向上」
野村一路	「余暇生活の確立を目指して、自らの生きる力を育む」
大坪敏郎	「教職を目指す者としての資質向上を図る」
井筒次郎	「教職を目指す者としての資質向上を図る」
世川 望	「スポーツと音楽の関連性、国際社会における日本人の思考及び価値観、日本とドイツの大学生活を比較研究」
緒方章宏	「総合的な学習について－テーマ学習－」
大出一水	「自然活動からの総合学習の研究（集中授業）」
長船哲齋	「微小生物と付き合い、微小生物に学ぶ」
田中邦雄	「教職を目指す者としての資質向上を図る」
石上秀昭	「現代の国際社会」
楠本恭久	「グループによる課題研究・発表」
荻 浩三	「異文化理解の方法」
鈴川一宏	「運動と健康」
伊藤雅充	「競技力向上とスポーツ科学」
中里浩一	「健康・スポーツにおける生理応答の理論的検証の試み」
小泉紀雄	「自然体験活動の企画・立案から評価まで」
眞如紀子	「健康・スポーツをめぐる諸問題を考える」
成田國英	「教育に関する諸問題を考える」
中野重人	「教育に関する諸問題を考える」



この総合的な学習の時間の創設が一石を投じることになるのではないかと締めくくりました。

価の問題について中野教授は「学力とは、それぞれの学校が子どもたちにどんな力をつけさせるのかということであり、端的に言うて、受験のための知識を詰め込むだけの学力でいいのですか？」ということになります。自分からチャレンジする力を小学校から高等学校で少しでも育てていくという課題を解決していくのが総合的な学習である」と語り、評価については「子どもたちが意欲的に、自分が大切だと思う課題を見つけ、調査し、いかに解りやすく発表することができたか」が評価のポイントであり「総合的な学習で点数をつける学校はないのではないかとしています。最後に中野教授は「いくつかの課題を解決しながら、私立学校も含めた全国の受動的だった学校が、能動的な学校に変っていくために、この総合的な学習の時間の創設が一石を投じることになるのではないかと締めくくりました。」

■本学の「総合演習」について

学習指導要領の改訂を受けての教育免許法の改正に伴い、本学においても総合的な学習の時間の意義や目的、その指導法について理解を深めることを狙いとして、教職科目である「総合演習」が開講されています。02年度の演習において、いくつかの貴重な体験学習報告も寄せられています。井筒次郎教授（教職教育Ⅲ）によると、03年度は、学生の皆さんが各自の興味・関心のあるテーマにそって授業を選択できるよう、予め各テーマをシラバス風に告知するそうです（左上の表参照）。「生きる力」とは与えるものでもなく、与えられるものでもありません。大学生活の中で自らが課題を見つけ、社会に目を向け、多くの体験を通して、自らが育んでいく欲しいと思います。

：総合的な学習の時間とは、子どもたちの学習の時間であると同時に、教師にとっても貴重な学習の時間であるようです。

第2部 教育現場での 取り組み例

山梨県・上野原中学校の実践

02年度、本校には体験・訪問学習で約30校の中学生が来校しています。中でも、山梨県の上野原中学校は「総合学習」の一環として昨年に引き続き、本年2月28日（金）、教師3名に伴われ1年生89名が横浜・健志台キャンパスに来校しました。この機会に上野原中学での取り組み方と実状を先生に語ってもらいました。

本校では、総合的な学習の時間を週2時間（1年生は、金曜日の5・6校時設定し、「若鷲の時間」と名付けました。1・2・3学年で、それぞれのテーマで取り組んでいます。いずれの学年も前半は、行事再構築の総合として位置付け、9月末の学園祭「若鷲祭」に向けての取り組みを通して、総合的な学習の時間の、一つのねらいである「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、自主的に判断し、よりよく課題を解決する資質や能力を育てる」ことを主眼に学習に取り組みました。

1学年では、後半の10月から「いのち」という大きなテーマを掲げ、二つ目のねらいである、「学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的・創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方について考えることができるようにする」ということを主眼に授業を進めることにしました。具体的には、自分たちが生まれ育ってきた上野原の地域に視点を向けさせ、過去に起きた飢餓や水で苦労した治水の歴史について、外部講師をお招きして話してもらいました。また、光化学スモッグや水などの環境問題、長寿食や酒まんじゅうなど地域の特産品、町タや町立図書館などを利用して調べたり、実際に酒まんじゅうを作ったりなどの体験学習を行いました。そして、改めて自分たち自身の「ころ」と「からだ」を見つめ直し、地域との関わりも含めて、各自がこれからどのような生き方をしたいのかを考えていく機会としました。

「からだ」については、まず、1学期に行った体力測定の結果を振り返らせました。その中で各自の課題は何か、それを解決させるためにはどうしたらよいかを考えさせました。次に、「からだ」に関わるテーマを設定するために、ウェビングの方法で思考を広げ、各自のテーマを明確にさせました。そして、日体大での体験学習と関わらせる中で、各自のテーマと関わるところを焦点化させ、コー

ス別研修を選択させました。栄養やトレーニングに関するテーマが多かったので、栄養に関する基本的な知識、カロリー計算の方法、トレーニングの種類や原則についての資料を、事前に生徒に読ませ学習させました。事前学習の一部は、実際は宿題のような形になってしまいましたが、

今後、体験学習後のまとめとして、各自B5版の大きさで新聞をつくりまします。①体験から学んだこと、②驚いたこと、衝撃的だったこと、③今後の自分に生かせること、などの項目だけ指定して、後は自由に作成させ、それぞれ思い思いの新聞を作らせる予定です。

振り返ってみて、専門分野以外は教師自身も勉強が必要なこと、生徒各自のテーマと体験学習を一致させることの難しさ、準備の時間が十分取れない、等々の課題や問題点が見えてきました。しばらくは、試行錯誤の日々が続くそうです。

（上野原中学校・教諭談）



生徒の皆さんから届いたお礼のお手紙

[平成15年度入試データ]

2003.3.24現在

※()は女子内数 *倍率=受験者数÷合格者数

■大学／体育学部

区 分	推薦	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
体 育 学 科	推 薦	500 (129)	500 (129)	422 (113)	419 (113)	1.2
	一 般	2,218 (514)	2,184 (506)	581 (116)	400 (64)	3.8
	学 科 計	2,718 (643)	2,684 (635)	1,003 (229)	819 (177)	2.7
健 康 学 科	推 薦	43 (31)	43 (31)	36 (26)	36 (26)	1.2
	一 般	512 (229)	504 (226)	201 (82)	139 (62)	2.5
	学 科 計	555 (260)	547 (257)	237 (108)	175 (88)	2.3
武 道 学 科	推 薦	44 (17)	44 (17)	42 (16)	42 (16)	1.0
	一 般	125 (24)	123 (23)	97 (17)	88 (15)	1.3
	学 科 計	169 (41)	167 (40)	139 (33)	130 (31)	1.2
社 会 体 育 学 科	推 薦	47 (18)	47 (18)	44 (17)	44 (17)	1.1
	一 般	869 (181)	858 (177)	226 (41)	131 (33)	3.8
	学 科 計	916 (199)	905 (195)	270 (58)	175 (50)	3.4
合 計	推 薦	634 (195)	634 (195)	544 (172)	541 (172)	1.2
	一 般	3,724 (948)	3,669 (932)	1,105 (256)	758 (174)	3.3
	総 合 計	4,358 (1,143)	4,303 (1,127)	1,649 (428)	1,299 (346)	2.6

■短大／体育科・保育科

区 分	推薦	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
体 育 科	推 薦	139	139	96	92	1.4
	一 般	262	259	93	49	2.8
	科 計	401	398	189	141	2.1
保 育 科	推 薦	52	52	49	47	1.1
	一 般	57	55	33	23	1.7
	科 計	109	107	82	70	1.3
合 計	推 薦	191	191	145	139	1.3
	一 般	319	314	126	72	2.5
	総 合 計	510	505	271	211	1.9

※推薦入試には帰国子女特別選抜1名含む(体育科)

■大学院体育科学研究科

区 分		博士前期課程					博士後期課程				
		志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率	志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数	倍率
ス ポ ー ツ 文 化 ・ 社 会 科 学 系	合 計	16 (0)	16 (0)	9 (0)	9 (0)	1.8	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	1.0
	本 学	14 (0)	14 (0)	7 (0)	7 (0)		2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	
	他 大	2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
ト レ ー ニ ン グ 科 学 系	合 計	27 (2)	26 (2)	17 (2)	17 (2)	1.5	3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	1.0
	本 学	15 (0)	15 (0)	9 (0)	9 (0)		3 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	
	他 大	12 (2)	11 (2)	8 (2)	8 (2)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
健 康 科 学 ・ ス ポ ー ツ 医 科 学 系	合 計	13 (5)	13 (5)	11 (5)	10 (4)	1.2	3 (0)	3 (0)	3 (0)	3 (0)	1.0
	本 学	9 (3)	9 (3)	8 (3)	7 (2)		1 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	
	他 大	4 (2)	4 (2)	3 (2)	3 (2)		2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	
合 計	合 計	56 (7)	55 (7)	37 (7)	36 (6)	1.5	8 (1)	8 (1)	8 (1)	8 (1)	1.0
	本 学	38 (3)	38 (3)	24 (3)	23 (2)		6 (1)	6 (1)	6 (1)	6 (1)	
	他 大	18 (4)	17 (4)	13 (4)	13 (4)		2 (0)	2 (0)	2 (0)	2 (0)	



■専攻科

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
17	17	17	16

■編入学

志願者数	受験者数	合格者数	入学予定者数
78	77	77	72

平成14年度「学内合同企業説明会」実施

平成15年1月18日(土)東京・世田谷キャンパスにおいて、2004年3月卒業生向け「学内合同企業説明会」を実施し、240名の学生が参加しました。

午前9時より741教室において、開催の主旨、及び今後の就職活動における準備についてガイダンスを行いました。

その後、第二体育館に移動し、参加いただいた企業30社(午前・午後の部各15社)の各ブースを学生達は思い思いに回り、会社概要、採用状況、企業が求める人物像などについて、午後4時まで学習をしました。

就職支援行事は、教員関係・公



務員関係なども含め、年間を通じて就職課で実施しております。今後対象となる下学年の学生諸君も、早い時期から就職に対する目的意識を持ち、掲示板など確認し、行事には積極的に参加していただきたいと思ひます。

平成14年度「専攻科修了式」「大学院修了式」

平成15年3月10日、東京・世田谷キャンパス深沢校舎第一体育館にて、平成14年度「大学・短大卒業式」が行われ、大学体育学部1,277名、短大185名に卒業証書が授与されました。

午後からは、741教室にて「専攻科修了式」が、引き続き「大学院修了式」が行われ、専攻科19名に修了証書が、大学院32名(前期課程30名、後期課程2名)に学位記が授与されました。



平成14年度「大学・短大卒業式」「専攻科修了式」「大学院修了式」

『日体フェスティバル'02』報告

日体フェスティバル実行委員会

11月1日(金)より3日(日)まで、横浜・健志台キャンパスにおいて『日体フェスティバル'02』を開催しました。

本年度は、大坪敏郎実施委員長、野口雅代実行委員長のもと、『日体維新』若者の力が生きる社会に『をテーマに掲げました。

オープニングには、第14回アジア大会競泳200m平泳ぎで世界新記録を樹立し大会MVPに輝いた、金メダリストの北島康介選手(体育学科2年生)が出席し、その感動を報告してくれました。その日の夜に行なわれたコンサートでは『亜麻色の髪の乙女』を大ヒットさせた、鳥谷ひとみさんの熱い歌声に多くの観客が盛り上がりましました。

講演会は、阪神タイガース元監督野村克也さんとバレーンピック競泳金メダリストの成田真由美さんをお迎えし、普段はなかなか伺えないお話にみなさん耳を傾けていました。

そのほか、毎年恒例になっている野外ステージでのさまざまな企画、オールスター日体、模擬店、フリーマーケット等々、各クラブの特色を生かした公開練習やスポーツ教室にも多くの方々が参加されました。

エンディングの学生たちのエネルギーを集めた演技発表会は、フェスティバルを締めくくりにふさわしいすばらしい演技の数々でした。

最後になりましたが、日体フェスティバル'02を開催するにあたり近隣住民の皆様をはじめ、多くの関係者にご助力いただきましたこと深く感謝いたします。



■体育研究所 40周年記念研究集会

2003.2.22 / 体育研究所長 田田善英

I. 40周年記念講演

最近の「脳科学と教育」研究の動向と体育・スポーツ

小泉英明(日立製作所・基礎研究所 主管研究員)

氏は「脳科学と教育」の分野で、わが国を代表するリーダーとして活躍されている。

① 小泉氏は、21世紀の新たなテーマとして、客観的な自然科学の観点から学習のメカニズムを研究する機運が高まっていることを強調された。その上で学習を脳の働きとして捉え、脳神経科学・発達認知科学の分野から明らかにしていこうというものである。

特に、1995年に近赤外線による「光トポグラフィ」の開発により、言語領野をはじめ各、大脳皮質領野の活性化が画像処理できるようになったこと。この方法は自然な環境の下で動的イメージングが可能のため、学習前・中・後の脳の動きを直接観察できるようになった。

② 将来、教育法と教育体系の再構築につながり、教育改革の可能性が随所に見られた。

さらに、体育・スポーツ科学の分野でも、運動機能の学習やトレーニング効果が脳機能との関連で客観的研究の可能性を示唆された。

II. スポーツ選手の競技力向上に関するシンポジウム

■西條修光教授

運動がうまくなるには、選手が頭を使って意識的練習とやる気が必要である。しかし、それだけでは十分でない。うまくなるためには、個人型のスポーツにおいても、また集団のボールゲーム型のスポーツにおいても選手の生活に伴う自己管理、練習の計画性が不可欠であること。そしてとりわけ、ボール型ゲーム①予測力の正確さ、②試合



中の状況判断、③創造力の発揮が重要であること。しかし、試合で十分に実力を発揮できなかった者が、実力を発揮することができるようには、試合内容の分析力をはじめ、メンタルトレーニングの導入が不可欠である。具体的にはどのようなトレーニングをするのか、その中身は何かを明らかにしていくことが重要だ。

■石川武教授(バスケットボール)

どうしたらチームの強化ができるのか?

「必須条件」①選手の体力・技能・精神

②頭を使う選手 ③練習意識と向上心

「十分条件」強化内容

(1) 選手の資質を強化するために指導者は情熱をもって徹底性を重視する

(2) 技術の習得・技能の良し悪しには十分な研究が必要であること

(3) バスケットボールに不可欠な走・跳・投をはじめ、スピード、スタミナの強化

(4) 選手の疲労回復、健康管理に気をつける

(5) 日体大の学生でなくてはできない自信とプライドを育成する

(6) トータルなバスケットからスタートする

(7) 目標達成のため、作戦・戦術・戦力の下、ハイスピードバスケットの実践

■具志堅幸司助教授(体操競技)

(1) トップアスリートの競技力向上の立場から

(2) トップアスリートの意識統制活動は心理的競技能力が高いこと

(3) 心理的競技能力とは、①競技意欲、②精神安定集中 ③自信、④作戦能力

*かつて、金メダリストの具志堅先生は精神安定・集中に注目され、オリンピック大会でイメージトレーニングを実践されたエピソードを話された。

02 [下半期] クラブの主な大会成績]

クラブ名

大会名

結果

氏名

■アーチェリー

高知国体
全日本ターゲット選手権
アジアグランプリバンコク大会
高知国体
世界選手権
世界選手権
全日本大学対抗選手権

全日本ジュニア選手権

■剣道

全日本学生優勝大会
全日本学生連剣友剣道
全日本レディス選手権
朝日杯全日本学生選手権

■ゴルフ

信夫杯争奪全日本大学対抗戦
全日本サンスポ女子アマゴルフ選手権
全日本学生王座決定戦
ソニーオープン・イン・ハワイ
全日本大学女子
全日本学生大会

■サッカー
■少林寺拳法

■水泳・競泳

東京SC公認記録会
W杯短水路 (パリ大会)
W杯短水路 (ストックホルム大会)
W杯短水路 (ベルリン大会)
短水路東京都大会

■水泳・水球
■スキー (アルペン)

日本学生選手権
志賀高原デサントカップ
全日本学生アルペンチャンピオン大会
欧州カップ
W杯
世界選手権
W杯第7戦
全日本学生選手権

■スキー (クラシカル)
■スキー (ジャンプ)
■スキー (スノーボード)

■スキー (ノルディック)

世界選手権
ユニバーシアード
冬季アジア大会
W杯
全日本選手権
W杯
W杯複合個人
ユニバーシアード
世界選手権
W杯
フリースタイルW杯
世界選手権
冬季アジア大会
W杯
全日本距離別選手権

■スキー (モーグル)

■スケート

真駒内選抜

浅間選抜競技会
W杯長野大会

W杯ノルビン大会
全日本選手権

全日本学生スピード選手権
全日本スプリント選手権
日本学生氷上選手権

W杯ソルトレイク大会

全日本ジュニア選手権
関東学生選手権
冬季アジア大会

W杯
W杯短距離インツェル大会
全国学生個人体重別選手権

■相撲

全国学生相撲選手権
全国大学選抜高知大会

■ソフトテニス

■体操競技

■バスケットボール

■バドミントン

世界選手権
全日本選手権
全日本社会人・学生対抗
高知国体
全日本選手権
関東大学リーグ
全日本学生選手権大会
全日本学生選手権

■ハンドボール
■フェンシング

アジア選手権
スイス・オープン
全日本学生選手権
関東大学リーグ
全日本学生選手権

■陸上競技

全日本フェンシング選手権
日本選手権
関東大学女子駅伝対抗選手権
2002上尾シティーマラソン
箱根駅伝
日中対抗室内横浜大会

■レスリング

福岡国際クロスカントリー
全日本大学グレコロマン選手権
高知国体
全日本大学選手権

成年女子 個人優勝
リカーブ 優勝
男子個人 3位
男子94キロ級 トータル優勝
女子75キロ級 9位
男子94キロ級 15位
女子58キロ級 優勝
女子69キロ級 優勝
女子75キロ級 優勝 (日本新、ジュニア新)
男子69キロ級 優勝
女子63キロ級 優勝
女子69キロ級 優勝
女子75キロ級 優勝
男子 準優勝
男子成年優勝 女子優勝
準優勝
男子 優勝
女子 優勝
女子 優勝

3位
3位
第2日 91位
優勝 (3年連続 9度目)
最優秀賞 女子団体演武
最優秀賞、内閣総理大臣賞 男子3段以上
最優秀賞 男子段外
最優秀賞、文部科学大臣賞 女子2段以上
最優秀賞 女子段外
最優秀賞 女子単独
100m平泳ぎ 優勝
平泳ぎ 50m3位 100m2位 200m優勝
個人メドレー 100m2位 平泳ぎ 100m2位
平泳ぎ 50m4位 100m2位 200m優勝
平泳ぎ200m 優勝 2分6秒00 (日本新)
平泳ぎ100m 優勝 58秒51 (日本新)
男子 優勝 女子 準優勝
女子大回転 3位
女子回転・大回転 優勝
男子回転 3位
男子回転第5戦 2位 第7戦 8位
男子スーパー大回転38位 回転36位 大回転38位
男子大回転第7戦50位 回転8戦17位 回転9戦6位
女子距離5キロ 2位
女子距離20キロリレー 2位
男子ノーマルヒル 優勝
男子パラレル回転 26位
男子スノーボード回転 11位
男子回転・大回転 優勝
男子パラレル大回転 28位
男子パラレル回転 優勝
男子 4位 複合B 6位
スプリント第7戦34位 第8戦10位
個人 2位 複合個人 2位
男子複合個人 33位 男子複合団体日本 6位
男子複合 42位
男子 8位
男子 17位
男子 2位
男子デュアルモーグル 7位
男子1000m 優勝 1500m 3位
男子500m 優勝
男子1000m 優勝 (大会新) 1500m 優勝
男子5000m 優勝
男子5000m 優勝
男子1000m 9位
男子500m 4位
男子500m 3位
男子500m 優勝 1500m 2位
男子10000m 優勝 男子総合 優勝
男子スプリント 3位
男子500m 3位
スピード男子500m 2位
スピード男子5000m 2位
スピード男子1000m 優勝
スピード男子10000m 2位
スピード男子1500m 優勝
男子2000mリレー 2位
男子対抗得点 優勝
女子2000mリレー 2位
女子対抗得点 3位
第1日 男子100m 1位
第2日 男子500m 9位
男子5000m 優勝
男子2000mリレー 優勝
男子500m 2位
男子1000m 3位 1500m 10位
男子10000m 3位 1500m 3位
男子1500mBクラス 5位
男子1000m 13位
85キロ級 準優勝
100キロ級 優勝
無差別級 優勝
団体 準優勝
個人 優勝
個人 準優勝
団体 準優勝
男子中量級 3位
男子 優勝
男子 優勝
成年男子団体 総合優勝
男子つり輪 準優勝
男子 3位 女子優勝
男子 準優勝 女子優勝 (2年連続17度目)
男子団体 優勝 (2年ぶり10度目)
女子団体 優勝 (4年ぶり19度目)
女子シングルス 優勝
女子ダブルス 優勝
男子シングルス 3回戦
男子シングルス 2回戦
男子優勝 (3年ぶり16度目)
男子サープル団体 準優勝
女子フルール個人 優勝
女子フルール個人 準優勝
女子サープル個人 優勝
女子フルール団体 準優勝
男子エペ個人 準優勝
女子エペ団体 準優勝
女子フルール団体 優勝 (14年ぶり2度目)
男子400mリレー 3位
準優勝
男子大学生 優勝
往路6位、復路14位、総合9位
女子200m 2位
女子1600mリレー 日本2位
男子ジュニア 2位
74キロ級 優勝
対抗得点 準優勝
成年男子フリースタイル58キロ級 優勝
成年男子グレコロマンスタイル63キロ級 優勝
フリースタイル55キロ級 優勝

櫻本静香
櫻本静香
佐渡彰一
山本茂令
今鋒一恵
山本茂令
川上知子
宮城寿子
今鋒一恵
井戸豊
渡慶次雅子
宮城寿子
真下留恵美

安田記子
清田大一郎
安田記子

下川めぐみ
坂本聡
清田大一郎

糟谷好宏、増井友成
沢田将生、柴甲一宏
三浦麻美、高橋鈴枝
芝崎美玲、田島佳代子
三浦麻美
北島康介
北島康介
北島康介
北島康介
北島康介
北島康介

星沙也香
伊東祐史子
佐々木明
佐々木明
佐々木明
佐々木明
富沢幸絵

遠藤悠介
川口晃平
川口晃平
川口晃平
川口晃平
青木純平
青木純平
青木純平
青木純平
下山研朗
下山研朗
下山研朗
中嶋敬春
川田知範
川田知範
中嶋敬春
安田直樹
安田直樹
中嶋敬春
川田知範
川田知範
中嶋敬春
安田直樹
西田匡孝
川田知範
山手新太郎
安田直樹
中嶋敬春
安田直樹
中嶋敬春

川田知範
川田知範
平森勇祐

川田知範
中嶋敬春
安田直樹
中嶋敬春
中嶋敬春
平貴之
寺田洋介
池浦亮

池浦亮
大西雅継

池浦亮
大西雅継
室谷哲也、香川大輔
水島寿思
長田克彬

松尾美穂子
松尾美穂子、田村美幸
大東貴也
大東貴也

和田彰
見須理恵
黒崎志保

長谷川大祐

熊本剛

藤巻理奈
藤巻理奈
熊本剛
岩崎裕樹

松永共広
柳川育広
松永共広



このコーナーは、「日体大に関する感想・意見」を取材や投稿により紹介するページです。学生をはじめとして保護者・卒業生・高校生・一般の方から、さまざまな感想・意見をいただきました。今後も「みんなの広場」へ自由な声をお寄せください。

●ダラダラなんかしてられない

(体育学科3年生 日本育英会奨学金申し込み時取材)
高校の後輩から日体大を受験したいとの相談を受け、入試広報室で入学願書を手に入れました。送ってあげる前に、募集要項を眺めていました。そして、学費のページを見て改めてこんなにも必要なのかと考えさせられました。

入学してからこれまで、周りを見る余裕がなく、自分が大学生を送るためにどのくらいのお金がかかっているのなんて考えたこともありませんでした。授業が終わる、その後はクラブ活動をし、アルバイトをすることなんて考えもしないですからね。

自分が希望して入った大学ですから、親にこまめの負担はかけられないと思い、その意思を両親に伝え、日本育英会の奨学金の申し込みをすることにしました。

卒業後に自分の力で返済しなければならぬので、そのことを考えながら就職活動をしていかなければならないし、勉強も今以上にがんばらなくてはいいかと思っています。

ダラダラなんかしてられませんよな。

●名も知らない

「日体大の学生さん」ありがとう

(川崎市在住の方から、お手紙にて)

……(前略)貴大学の学生お二人に助けていただいた者の家内でございます。

2002年12月29日、20時50分頃、横浜、帷子川の橋付近で、主人が、一時的な血圧の急激低下で意識を失い、突然倒れたのです。(この時私は同行しておらず、ここからは主人の友人たちからのお話)

その折、二人の若い男性が近寄ってきてくださり、「自分たちは日体大の学生で、救命資格を持っています」とおっしゃられ、救急車が到着するまで適切な処置を施してくださり、救急隊員の方にそれまでの状況を詳しく伝えてくださったとのことでした。その際、名前を伺ったのですが、おっしゃらずに立ち去られた由にございます。

おかげさまで、その日の夜遅く帰宅でき、翌日CTスキャン等詳しく診察していただきましたが、異常はございませんでした。倒れた直後のご配慮がなかったら、このように軽度のことでは済んでいないと存じます。夫婦で心から貴大学の学生お二人に感謝している次第でございます。

突然ではございますが、御礼を申し上げたく手紙をしたためさせて頂きました。

●就職へのスタートライン

(社会体育学科3年生・男子 学内合同企業説明会にて取材)

就職に進むか、企業に進むか迷っていた状態だったのですが、こういったチャンスは生かさねばと思い、初めて参加しました。

時間を待つだけでなく、インターネットでただ漠然と情報を眺めるだけでなく、企業の方に直接お話を伺うことで、求められている人物像といったものが実感できて、とても勉強になりました。これからも会社説明会やセミナーなど、積極的に活動しようと思いました。

体育・スポーツを学んでいる日体大生にとって、企業就職というものに視野が向かず、就職活動に「対して」しなければ「と思いながらも、なかなか行動に移せるきっかけが難しい学生が多いと思います。少し遅れましたがこの説明会で自分もいよいよスタートラインに立たせたような気がしてきました。

参加したみんなもこれからどうしたらいいか、見えなかったのじゃないかと思っています。

●雪解けの「箱根駅伝」

(東京都在住の方から、お手紙にて)

スポーツ観戦が大好きな私は、息子の(陸上部ではないのですが)日体大入学をきつかけに、当時シード権争いで苦戦していた駅伝部を応援し始めました。

3年前の雪の日には「早くこの雪が解けて春が来て!」と雪だるまを作りましたが……。昨年の12月、やはり雪の日に今年こそその気持ちを込めて応援小旗を作りました。そして年が明け1月2日、その小旗をバッグに入れて応援団の太鼓の音が鳴り響く、大手町のスタート地点へ応援に行きました。そして往路の芦ノ湖へ車で向かい、6位の森永君を迎えることができました。

翌3日の復路は、強い風と雪の降る悪天候の中、「選手も、応援団も、OBも、全国の保護者も……みんなががんばっているんだ」と、自分に言い聞かせてゴールの大手町でアンカー・青野君の到着を待ちました。

「来た!」大歓声。9位ゴールの瞬間、7年ぶりの「シード権獲得」です。「一陽来復」私の、心の雪がスッと解けました。

部員のみならず、本場にありがとう。新しい目標に向かってこれからスタートです。「質実剛健」でがんばってください。

●これからも「日体大生」

(短大・体育科2年 編入学試験合格発表時取材)

入学してからの2年間で、あつという間に終わりの4月からは体育学部 体育学科の3年生です。

高校の時にクラブ顧問の先生から日体大のことを聞いて興味を持ち、短大へ入学することができました。短大生と学部生が一緒に同じキャンパスで過ごしていますから、学部生の仲間もたくさんできたり、授業も興味のあることがまだまだたくさんあり、このまま卒業することにすこ抵抗を感じたのです。だから、就職活動は全くとっていいほど行いませんでした。両親は心配していましたが、編入学の相談をし、納得して今日の結果を受けたのです。すごく嬉しいです。

今年、体育科からは70名くらいが合格しているのですが、あと2年間一緒に、高校の先生が教えてくれた日体大で、学生生活を充実させたいと思います。お父さん、お母さんよろしく。

●心より感謝

(国分寺市在住の方から、お書にて)

2月14日、私事、志賀高原焼額山にてスキー中、スノーボードに衝突され、右下腿挫創筋断裂の怪我をしました。その際、近くに居合わせた日体大の、スキーの実習中のみなさまには大変お世話になりました。現場でのみなさま方の適切な処置のお陰と対応により、大事に至らず心より感謝しております。

診療所にて応急処置の後、救急車で北信総合病院にて手術・入院。現在は東京立川市の病院に転院いたしました。その後は、痛みもなく順調に回復しております。

本当にありがとうございました。

■このコーナーへ、手紙・FAXで自由な声をお寄せください。

郵送/〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1 日本体育大学・日本体育大学女子短期大学「NITTAIDA」みんなの広場宛
FAX/03-5706-0949

INFORMATION dot.NITTAIDAI

■学年暦 (平成15<2003>年度上半期)

月	日(曜日)	行事
4	3(木) 4(金)～10(木)	入学式(横浜・健志台キャンパス) 新入生オリエンテーション (健康診断、スポーツテスト、学生証手続、履修申告、他) 在学生 健康診断、履修申告確認等 防災訓練及び就職対策等の行事 前学期授業開始
	11(金) 14(月) 14(月)～ 14(月)～18(金) 28(月) 30(水)	大学 養護実習(健康学科養護コース4年)[5/17(土)まで] 履修申告確認期間 休業日(7/21の振替) 自宅研修日
5	1(木)・2(金) 17(土)・24(土)	自宅研修日 介護等体験事前指導講習会 第1・2回(短大体育科1年・その他)
6	2(月)～28(土)	教育実習(大学4年)、教育実習(短大体育科2年)、 教育実習2(短大保育科2年)
7	1(火)～4(金) 1(火)～14(月) 1(火)～14(月) 2(水)～10(木) 7(月)～11(金) 21(月) 22(火)～25(金) 25(金) 26(土)～31(木) 28(月)～	大学 水泳指導実習:日赤水上安全法コース(体育学科3年) 大学 海浜実習(1年) 大学 キャンプ指導実習(体育・健康・武道学科3年) 短大 キャンプ実習(保育科2年) 大学 ゴルフ指導実習(体育学科2年) 第1・2回(栗石) 短大 体験実習(1年) 通常授業実施(4/28に振替) 前学期定期試験期間 前学期授業終了(試験を含む) 補講・追試験・再試験期間 夏季休業(10/5(日)まで)
8	4(月)～ 7(木) 11(月)～	大学 看護臨床実習(健康学科養護コース3年)[9/5(金)まで] 前学期成績提出締切日 大学 社会教育実習(社会体育学科3年)[9/20(土)まで]
9	8/31(日)～10(水) 20(土) 22(月)～25(木) 25(木)～10/4(土) 24(火)～27(土) 30(火)～10/3(金)	大学 キャンプ理論・実習(社会体育学科2年) 開学記念日 大学 マリンスポーツ理論・実習(社会体育学科3年) 大学 水泳指導実習:ダイビングコース(体育学科3年) 大学 ゴルフ理論・実習(社会体育学科4年) 大学 ゴルフ指導実習(体育学科2年) 第3回(菅平)

■新採用教員紹介



入江一憲(イリエカズノリ)
[大学:教授] 健康学科
スポーツ医学
東京大学医学部卒業
医学博士



刑部 久(オサカベヒサシ)
[大学:助教授] 教養・教職科
人文科学
早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学
文学修士



筒井大助(ツツイダイスケ)
[大学:助教授] 体育学科
運動方法(ソフト・野球)
関西学院大学法学部卒業



斉藤一雄(サイトウカズオ)
[大学:助手] 武道学科
運動方法(相撲)
日本体育大学大学院体育学研究科修士課程修了
医学博士・体育学修士



津山 薫(ツヤマカオル)
[大学:助手] 健康学科
発達発達
日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了
体育科学博士



谷代一哉(ヤシロカズヤ)
[大学:助手] 健康学科
大学院健康科学・スポーツ医科学系
日本体育大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了
体育科学博士



釜崎 太(カマサキフシジ)
[大学:助手] 体育学科
体育原理
筑波大学大学院体育科学研究科博士課程単位取得退学
体育科学修士



畠田好章(ハタケダヨシナリ)
[大学:助手] 体育学科
運動方法(体操競技)
日本体育大学大学院体育科学研究科修士課程修了
体育科学修士

■平成15年度 日本体育大学・日本体育大学女子短期大学 役職者一覧

学 長	長谷川 正 明	短期大学学長	長谷川 正 明
副学長	池田 敬 寛	短期大学学部長	富岡 元 信
大学院研究科長	小嶋 寛 彰	体育科長	村本 和 世
体育学部部長	中田 敏 幸	保育科長	時本 久美子
体育専攻科長	富田 幸 博		
体育学科長	大内 哲 彦		
健康学科長	大上 野 純		
武道学科長	三宅 香 水		
社会体育学科長	大出 一 水		
教養・教職科長	黒 田 稔		

教 務 部 長	山 田 保 明	健志台教学局長	大 坪 敏 郎
学 生 部 長	清 水 義 明	学 長 室 長	谷 釜 了 正
就 職 部 長	井 筒 次 郎		

■附属施設長

図 書 館 長	滝 沢 康 二	健康管理センター所長	櫻 井 忠 義
体育研究所長	円 田 善 英	寮 監 長	伊 藤 直 樹
スポーツトレーニングセンター長	関 口 脩 脩		
ス ポー ツ 局 長	笹 淵 五 夫		

■日本育英会奨学生の募集について

日本育英会奨学金制度は、経済的に安定した学生生活を送るために設けられています。奨学金を受けるためには、学力、人物ともに優れ、経済的に修学が困難であると認められることが条件になります。

募集については学生課、教学局の掲示板で通知しますので、希望者は必ず確認をし、機会を逃さないようにしてください。なお、家計を支えている人の失職、死亡、不慮の事故、災害などによって家計が急変した場合は「緊急採用」「応急採用」の道がありますので、事情が生じたときは早急に学生課、教学局に相談してください。

各地方公共団体の奨学金については、大学に募集があった場合は掲示にて通知しますが、原則的に各地域の教育委員会等に各自で問い合わせをしてください。

■問い合わせ先 東京・世田谷キャンパス 学生課 03-5706-0904
横浜・健志台キャンパス 教学局 045-963-7900

【編集後記】 2003年の新年幕開け、「第79回東京箱根間往復大学駅伝競走」。通称「箱根駅伝」は、今や国民的注目行事であるといわれ(年末年始TV視聴率でNHK紅白歌合戦に次いだ)、その二日間に渡る激走は日体大関係者ならずとも一喜一憂する筋書きのないドラマです。本学陸上競技部・駅伝チームは、そのドラマで7年ぶりにシード権獲得という嬉しい結果を演じてくれました。シード権を持って出場した4大学がそれを失い、予選会から出場したチームの内5大学が来年度のシード権(総合10位まで)を獲得するという、まさに「戦国駅伝」、名のとおりです。

今回の取材で、その駅伝チームを支える方々にお会いすることができました。選手への気持ちをひとこと一言大切に答えられる優しいお顔を見て、みんなのことを大切に思っているのだなと感じました。駅伝という競技は、多分に「人のため・みんなのため」といった要素があると聞きます。どの社会においてもこの気持ちを持って活動することの大切さを、改めて教えられました。